

地方自治ここにあり 首長インタビュー

合併の効果を活かす 総合的な観光戦略を展開へ まちづくりを積極的に推進

若者が
住む

白浜町長 井 潤 誠



井潤誠町長

「地方自治ここにあり・首長インタビュー」、今月号は白浜町の井潤誠町長をお訪ねして、今年5月に公表された報告書をふまえながら観光白浜の課題とこれからの観光戦略についてお聞きしました。聞き手は、和歌山県地域・自治体問題研究所の鈴木裕範理事長です。

町政混乱の要因 ゴミ焼却場問題は

鈴木：しがらみのないクリーンな政治を訴えて、町長に選ばれて2年余り、混乱を続けてきた町政の正常化は、進みましたか。

町長：そうですね、ゴミの焼却施設に関する課題については、解決に向けて、この2年間で、誠心誠意取り組んでまいりました。最終的な課題の解決に向けてはもう少し時間がかかるかと思いますが、関係者のご理解とご協力を得ながら町一丸となつて、取り組んでまい

りたいと考えています。

鈴木：これまでの町政で、結局、何が一番足りなかったとお考えでしょう。

町長：過去の町長時代のこととは、詳細は存じあげておりませんが、ボタンのかけ違いですとか、あるいは協議の過程におきまして、いろんな誤解が生じ、なかなか進まなかったのではないかと。その辺りですね、粘り強く、地元の皆さんと協議をして町民へ情報発信したいと思っています。そういうものが今後進んでいけば、最終的にご理解いただければ、いろいろ問題を解決していけるのではないかと思います。ですから、オープンにできる場所はできるだけオープンにし、これからの取り組みでまいりたいと思っています。

数字が示した 観光依存の町・白浜

鈴木：町長の決意を感じます。さて、地方をとりまく

状況、地方経済は明るさもみられるようになったとはいえ依然厳しい。人口問題をめぐる、深刻な予測もあります。白浜町の地域経済の柱、最大の地場産業は観光産業です。

町長：そうですね、白浜町は、観光依存度が、全体の43・1パーセントという数字が出ております。

鈴木：民間の研究機関に委託して初めて行った調査でしたが、40パーセントを越す依存度はどうみていますか。想定内、それとも想定外でしたか。

町長：私は、こんなに高いとは思ってなかったですね。観光依存度の率が高いということが、改めて分かりました。たとえば、この調査では、観光客が10万人増えれば、38億4千万円の経済波及効果があるという数字が出ております。10万人増やせば、相当大きな起爆剤になると思います。それから、雇用効果としましては462人の増加がある。税収としましては3600万円の増加が見込まれるというところで、町だけじゃなくて、旅館組合、観光協会、商工会の経済三団体、関係

目次

地方自治ここにあり 首長インタビュー 白浜町長 井潤 誠	1
橋本市国民健康保険制度の充実を求める会学習会 講演 千代田短大教授 山本 敏貢	5
2014年度総会記念講演 社会保障運動に確信を持ち「国はおかしい」を大きな世論に 日本高齢者運動連絡会顧問 篠崎 次男	8
織田秀信と真田幸村⑨ 堂本 育司	12

わかやま住民と自治

発行／和歌山県地域・自治体問題研究所
和歌山市湊通丁南1丁目1-3 名城ビル3F
TEL・FAX 073-425-6459
jichiken@crux.ocn.ne.jp 2014年8・9月号



団体とも議論しながら、具体的な数値目標、これをこれから構築していきたいと思っております。

鈴木：これからも、この町は、観光産業によつて生きていくことになります。

町長：そうですね。白浜町は温泉はもちろん、様々な地域資源がございます。その中で、オリジナリティーがありますか、独自性もあるわけですが、うまく生かすけれども、それがどうもまだ、うまく生かされてない、PRできていない、十分アピールできていないというのがございます。その辺をですね、全体的な相乗効果を出すた

めに、もう少し違った角度からスポットライトを当てて新しいお客様を取り込むとか、リピーターをもっと確保するとかですね、この辺りをもっと重点的に考えていかないとけないと思っております。

私は、目標は、世界に誇れる観光リゾート白浜町の実現だというふうに言っておりますので、そういった大きなビジョンといえますか、目標を立ててですね、それに向かつてじゃあ、今何が必要なかと、何が足りないのかつてことを、もっともっと、町民の方々と議論していきたいと思っております。

鈴木：いま一年間に白浜を訪れる観光客は年間：

町長：平成25年度は315万人ということで、23年度の落ち込みから少し盛り返してきてるところです。

鈴木：宿泊客増は、重要なポイントですね。

町長：そうですね。日帰りが120万人でございます。今後、高速道路が南伸化することによりまして、日帰り客がますます増える可能性は十分あります。高速道路は、来年白浜、すさみ町

まで、開通する予定です。そこで、宿泊のお客様にもっと1泊、2泊、3泊とさせていただけるための仕掛けといえますか、そういった演出がもっと必要になるかと思えますね。日帰りのお客様さんが泊まっていたらけるには、どういう施策が一番いいのかわ、この辺りを、やはり考えていかないといけません。1泊を2泊に、2泊を3泊にするという、具体的な取り組みをいましておられます。

合併で増えた観光の核 町内を結ぶ観光展開へ

鈴木：リゾート地としての魅力、内容の強化が重要です。

町長：具体的に言いますと、たとえば、日帰りのお客様は、当然、近くなるわけですから、白浜を素通りする可能性も出てきますし、白浜に来て何か新しいものがなければ、恐らく、そのまま日帰りで帰ってしまう。

白浜町は平成18年に旧日置川町と合併しましたが、日置川にもすばらしい地域資源がございます、ですから、そういう新しいスポットを、これからもっとも

と開拓をして、PRをすることにより、観光客が椿や日置川の方にも流れていくんではないかと思っております。

鈴木：合併効果をどう生かすか、ですね。

町長：そうですね。

鈴木：地域資源の掘り起こしは、旧白浜町、中心部においてもいえるのではないですか。

町長：そうですね、おっしゃるとおりです。そのところは、この25年、26年度に2か年をかけて少しずつ整備をしております。たとえば、臨海地域に番所山つていう、昔は非常に栄えた観光名所があったんですけども、そこを遊歩道やあづまや、見晴台のある、自然と一体となった公園に整備しました。歩いていただけると、自然観察ができる、ファミリー向け、あるいは子どもさん向けの、自然観察の場にする。そこには南方熊楠記念館もございます。

京都大学の水族館も、この7月4日にリニューアルオープンとなりました。番所山公園も、新しい、観光スポットになりつつあります。もう一つは、湯崎漁港の



フィッシャーマンズワフ白浜

整備が完成しまして、そこに町の支援でフィッシャーマンズワフ白浜ができております。レストランがあり、お土産屋さんがあるということで、新しい観光スポットになっておりますので、大きな起爆剤になると思っていますし、これから期待をしておるところです。

鈴木：熊楠記念館は、確かに建て替えを。

町長：いまの建物の少し前方に、新しく本館を建てることに決定をしております。予定では平成28年度にはできあがるということになっております。生誕150年の節目のときに完成予定です。

鈴木：熊楠にまた注目が集まると思いますが、期待されます。



白浜温泉街

同時に温泉街にも、もつと掘り起こしたい物語がありそうですね。それらのブラシユアップが、さらに付加価値を生むと思うのです。

町長：そうですね、南紀ジオパークへの取り組みとか、県立自然公園が国立公園になるとか、いろんな動きが出ております。その辺りも一緒に、白浜町の中に埋もれてる、そういった資源をもう一度掘り起こしたいと思っております。

まだまだこれからなんですけれども、大地の公園といわれているジオパークは、新しい観光の資源になり得るということで、地元とし

ても、取り組んでいきたいなと思っております。

鈴木：いま宿泊が19.5万、全体で300万人として、これをいつごろまでにどれくらいにするというふうな数字的な目標はあるんでしょうか。

数字を設定 国際交流を重視

町長：それは、いままでなかったんです。これからですね、経済三団体、それから町が入りまして、この四者で代表者会議をしまして、そこで協議会を発足して、たとえば320万人を目指すとか、10万人を宿泊客で増やすというふうな具体的な数値目標を掲げて、それに向かつて努力していくという議論を開始したいと思っております。ターゲットの設定ですね。

鈴木：ところで、近年観光の形態や環境が変わってきています。海外からの観光客はどうでしょうか。

町長：増えてますね。数字的には、いま一番多いのは香港と台湾なんです。具体的な数字をお示ししますけれども、25年度は、宿泊客いわゆるインバウンドです

ね、訪日外国人客の宿泊客が5万8568人ということとで、白浜町が県内でトップになったんです。高野町が5万1840人ですの

で、それほど変わらないんですけれども、白浜町がシェア的には、県内市町村では一番上になったと。内訳は、やはり一番多いのは東アジアで、香港、台湾、それから韓国、中国という感じでございますね。欧米豪も、やはり増えてます。インドや中近東、この辺りは、これからのマーケットですけども、増える可能性は十分にあります。

とくに私は、世界と交流する町、国際交流を推進していきたいなと思っております。ホノルル、ワイキキ、それから韓国の果川市とは姉妹提携してるんですけども、それ以外もいま台湾の礁溪温泉というところと民間レベルでは温泉協定結んでます。こういったところからもまた、増えてくる可能性があるので、ますますそういう外国人マーケットへの対応といえますか、インバウンドへの対応というのが、急務になってきてます。

鈴木：なるほど。一方、日本人の観光の形態も変わってきています。白浜は、別府、熱海と並ぶ温泉観光地として発展してきました。

観光客はマスで受け入れてきたわけですが、最近は家族旅行、グループ旅行というように、少人数化の旅が増えていきます。先ほどのリゾートと関係しますが、この辺のところをどういうふうに考えておられますか。

町長：そうですね、今の旅行の形態あるいは目的っていうのがもう、かなり多様化しております、特に形態的にはもう、団体よりも個人旅行、すなわち家族ですとか、そういう少人数の規模の旅行形態が、増えておりますので、そこに我々も、もう少しシフトしていかないといけないと思っております。もちろん団体のお客さんもありがたいですけれども、昔みたいにバスで全国から来るっていう時代は少し変わってきておりますので、個人旅行者にターゲットを絞って、そのあたりの取り組みはこれから重要になってくると思います。キーワードとしましてはやはり、白浜なら

はの特産品、ブランドの強化ですとか、地域資源を、もつともつと活用してですね、ここでしか体験できないもの、見れないものを、食べられないもの、食の体験をアピールしていけば、もつともつと、売りになるんじゃないかと思っております。

鈴木：白浜は温泉があり、海あり山あり、川もあります。

町長：そうですね、日置川があります。そこでしか体験できないカヌー体験ですとか、アユ釣り、エビとかウナギもありますしね。

日置川は昔から、ソフトテニスが盛んな町でございます、まして、テニスコートが、来年の国体に合わせまして、今年の3月にテニスコートが12面から20面に拡大されました。この20面のコートは非常にすばらしい、人工クレイコートでしてね、まだ全国的にも、これだけの規模のテニスコートはないんです。ですから、その辺を国体後もアピールしていきたいなと思っております。

スポーツ合宿、それからスポーツの大会、こういったものも白浜町がテニスを中心にして、できるだけ誘致



白良浜

できないかなというふうに思っています。

鈴木：なるほど。そういういくつもの要素をもつまじりぶりですね。

町長：そうですね。それともう一つ、参加、体験型の観光です。白浜町は、いま南紀州交流公社さんが主に教育旅行、民泊、こういったものに非常に力を入れていただいていますので、期待しているところです。

人口減に高齢化 若者定住に優遇施策検討

鈴木：最後に、お尋ねしたいと思ったのは、市町村合併から10年たつての功罪です。白浜のなかの日置川間

題、この地域の活性化をどう進めるかということですが、いかがでしょうか。

町長：そうですね。とくに人口減少が著しいのが、旧日置川町で、過疎地に指定されておりまして、そこで人口減少をいかに食い止めるのか、高齢化になってお

りまして、やっぱ若者を、この白浜町に、とくに日置川地域に呼び込める優遇施策ですとか、若者向けのいろんな施策をやって

いきたいと思つてます。少しでも若者が増えて雇用につながり、そしてまた、地域が生き残っていきけるようにやっていかないといいな

と思います。

鈴木：旧白浜町の中心部以外、周辺部になる富田、樅地区などの、位置付けも重要です。

町長：そうですね、やはり、農業を中心とした第一次産業がメインでございますので、第一次産業への支援と

いいですか、農業政策ですね、具体的に若者就業施策とかにいま力を入れております。何とか少しでも遊休農地を増やさないように、若者が定着できるような、そういう具体的な取り組み

を、進めているところです。

鈴木：そう考えた場合に、日置川の場合の地域振興策というのは、若者が定住する仕組みを、地域のなかに

どういうふうにつくっていくのかということになりましてね。

町長：そうですね、居住してもらえれば、これだけのメリットがありますよとい

うふうな、優遇施策ですね。たとえば、住宅です。あるいは子育て支援について掲

げれば、中学生までの医療費無料化とかですね、雇用ももちろんありますけれどもね、まずはそういう具体的に、施策を反映していか

ないと、なかなか帰つてもきてくれませんし、Ｉターンしてくれないかなとは思っています。日置川だけ

じゃないんですが、白浜町全体で人口減少が進んでお

りますので、少しでもそれを食い止めるために何かできないかなということではないか、検討しています。

鈴木：これまではそういう制度はどうでしたか。

町長：なかつたです。ですから子育て支援で若者が増えるという成果を上げてい

る日高町さんや人口が増えているお隣の上富田町さん

を参考にしながら、取り組んでいきたいと思つていま

す。白浜町は、温泉もあるわけですから、この温泉と

いうのを例えれば、何年か一定の期間住んでいただければ、少しでも温泉の恵みが

還元できるような、そういう具体的なこともできますのでね、検討してるところ

です。

鈴木：若い人たちの定住は観光の町・白浜町にとつても、大きな課題です。若い世代が地域にとどまって、地域のリーダーとして育つていく、そういうまちづくりを期待したいと思つています。今後どのように町政を担当していけるか、お聞かせください。

大きな視点で 新しいまちづくりを

町長：南海・東南海、南海地震、南海トラフ巨大地震への対応などや課題はありますが、私は常日頃から、

安心・安全というのが最大の最高のおもてなしだとい

うふうにおもてなしております。まず安心・安全の町でなければいけない。これも住民、町民だけじゃなくて、観光

客にとつてもそうでございますので、旅館、ホテル等への耐震改修促進法が出ましたので、その辺りも含めて、観光業者の方にも、これから町としてもお願いをしていかないとけません。

もう少し大きな視点で、この町をどういうふうに導いていくんだというふうな

リーダーシップも発揮できるような、具体的な施策を展開していきたい。

やはり職員とのコミュニケーション、あるいは町民と、いろんな接点が必要かなと思つております。

現在、さまざまな案を頂いておりますので、その中で優先順位を付けながら、

白浜町が和歌山県の中で、世界に誇れる観光地として、世界中からお客さん来ても

もらえるような取り組みを、もつともつと、まちづくりの中で、新しい白浜町をつくるために、私自身が、とにかく全力で、汗をかいて

いきたいと思つています。

鈴木：対話を重視した、メリハリのある、町政運営を期待します。今日は、どうもありがとうございます。町長：どうもありがとうございました。